

<<長後地区西部探訪>> 長後地区西部の地名と史跡を巡る

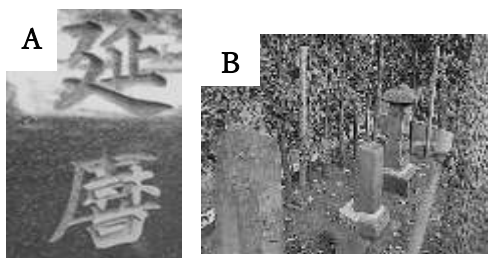
-長後天満宮ほか-

2021.11.25/26

吉澤 忠雄 記

11月25日(木)、26日(金)の2日に分け、初日は一般参加者と一部の会員、2日目は会員のみとし、全員申込制で実施。参加者は、初日31名、うち一般参加者17名、ガイド3名、翌日は16名、うちガイド2名でした。両日も好天に恵まれ、そして善然寺では予定通り、ご住職による秘仏及び浄土宗関係の諸仏像や最近奉納された観音菩薩像などの丁寧なご説明を頂け、他では得られぬ体験も出来ました。

当会での長後地区西部探訪は平成27年以来の6年ぶりです。その間の変化の様子は今回の探訪で注目点の一つでしたが、下土棚遊水地が供用開始され、何基かの石仏類が道路開発等で長後市民センターに移され、そして史跡の多くに新解説板が設置されていました。これらを踏まえ参加者向けの資料は、変化の結果を記し、また極力説明板や記念碑などの原文を転載し、現地めぐりでの便を試みました。一方、行程の現状の写真は省き、時間節約上、急遽当日コースからカットした史跡だけ写真説明としました。しかし、画像がないと分かり難い事も多く、この場を借りて幾つかを以下に纏めて補足・後日談とします。



画像A. 長後天満宮の「菅公千百年記念碑」(平成14年)の祭神菅原道真の時代代表記で、資料では「延曆」としたが間違いで、正しい字が重ね彫りされていました。「曆」の「厂」(雁だれ)と「特に白い部分」を黒く塗りつぶすと正しい「延喜」が見えてきます。資料は誤読で、道真は「延曆」のほぼ百年後に活躍した人です。

画像B. 長後市民センターは従来から地元の石造物を集めており、且つ平成31年に立派な説明板が整備されました。写真は説明板設置後集められた石造物で、右奥が「右ほしのや道」の銘ある大下の庚申塔、左前が「左大山道 右星の谷道」銘の諏訪ノ棚の道標です。画像CとDは、現状と以前の比較写真となります。

画像C. 大下の庚申塔 ここでの「右」はほしのや道と逆であり、元は道路の反対側にあったと思われます。

画像D. 諏訪ノ棚の大山道道標で、右の星の谷道の正面には大山の頂上が見えます。

画像E. 中村の道祖神 ここ半年で目の前に下土棚遊水地が整備されました。左の道は旧大山道跡で、この先の引地川を渡る下土棚橋(旧六会橋)はなくなりました。

画像F. 天神添の道祖神 資料作成時、夏草と笹藪が繁り、場所の確認が出来なかった道祖神ですが、どんど焼きで笹藪が開かれ確認出来ました。ここで火を取り約300m北の天満宮に運び、どんど焼きをしたとのこと。道路拡張で崖上に移され、古くは道の反対側にあったものさそうです。偶々再訪の日がどんど焼きの直後で運良く確認出来、これで今回の長後地区西部探訪の締めが出来た気がします。



H12年3月



R3年7月電柱辺りが跡地



H28年1月



R3年10月 跡地



R3年7月



R4年1月



2 R4年1月



所在は電信柱支柱の下辺り